



## 自分の力で 肉を獲る

千松 信也／著  
(旬報社)  
65・セ

小学生のころから動物好きだった僕。椋鳩十の本を読んで、野犬を飼いならすことに挑戦したこともある。大学生の時に狩猟の名人に出会い、猟師の免許を取った。あなをしかける時は、山の探偵になりきる。足跡やうんち、木の傷や泥を調べ、ねらった獲物を獲る。動物たちと知恵くらべをする度に、僕は動物たちを尊敬する。動物と向き合っこそ、見える世界。



## 県知事は小学生？

濱野 京子／著  
(PHP 研究所)  
91・ハ

小学6年生の中林尊憲は、図書館からの帰り道にヘリコプターの墜落事故に巻き込まれた。大怪我はしなかったものの、ともにヘリコプター事故に巻き込まれた県知事、大井政作の意識が体に入り込んでしまう。評判の悪い県知事とまるで二重人格のように入れ替わりながら日々を過ごすうち、尊憲は県政が自分たちの暮らしに密接にかかっていることに気づいていく。



## 恐竜ガールと 情熱博士と

祓川 学／著  
(小学館)  
457・ハ

小学5年生の時の化石採集をきっかけに考古学や地球科学を学んだ東洋一さんは、福井県立博物館の学芸員だった。中学2年生の少女が恐竜の歯の化石を見つけたことから、「福井県でもかならず恐竜化石が出る」と信じ、発掘作業に取り組む。日本で最初に正式な学名が付いた「フクイラプトル・キタダニエンシス」の発掘、開館20年を迎え世界中から多くの人々が訪れる福井県立恐竜博物館のはじまりに関わった研究者の物語。



## ずっと見つめていた

森島いずみ／作  
(偕成社)

91・モ

物語部門

越の妹つぐみは化学物質過敏症に苦しんでいた。両親はつぐみの体のことを考え、埼玉から空気の良い山梨へ移住することを決断する。小さな中学校への入学、お母さんがオープンさせた自然食の食堂、コンビニも塾もない町、犬のいる生活・・・、越はこれまでと全く違う環境に不安や迷いを感じながらも新しい生活をスタートさせる。



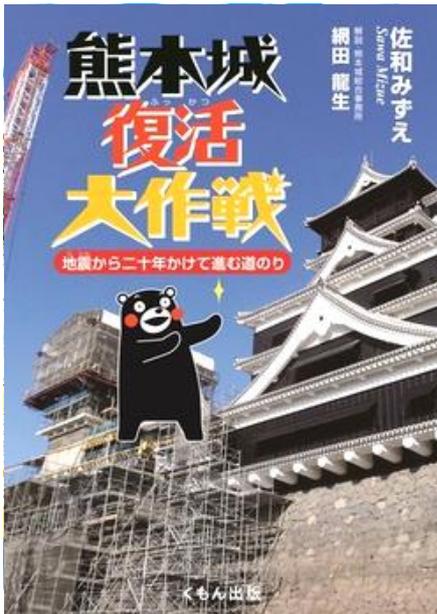
## 朝顔のハガキ

山下みゆき／作  
(朝日学生新聞社)

91・ヤ

物語部門

誠矢の家には毎年夏が来ると朝顔の絵が描かれた不思議なハガキが届く。ばあちゃんにそのハガキを見せたら破り捨てられてしまった。いったいハガキの送り主は誰なのか？6年生の夏、誠矢はついに「ハガキの人」に会いに行くため、隣のクラスの梶野くんを協力してもらい旅行の計画を立てる。ばあちゃんの猛反対を押し切ってハガキの送り主の元へたどりついた誠矢に、思いもよらない出来事が起こる。



## 熊本城復活

## 大作戦

佐和 みずえ／著  
(くもん出版)



日本の特別史跡と重要文化財に指定されている熊本城は、市民に愛され、熊本の顔とも言える名城だ。ところが2016年4月に起きた熊本地震で甚大な被害を受けてしまう。修復にはおよそ20年かかると言われているが、崩れた石垣や外壁、落ちて壊れてしまった瓦やしゃちほこなど、一つずつ調査をしながら、着々と修復作業を進めている人々がいる。福井市の姉妹都市である熊本市・・・そのシンボルの復活を、ぜひ見届けたい。



ほんのうじ  
**本能寺の敵**

加部 鈴子／作  
田中 寛崇／画  
(くもん出版)  
91・カ

物語部門

1582年、忍びである涼音は明智光秀の屋敷に仕えていた。織田信長から絶大な信頼を得ていた光秀は、徳川家康を討つように命じられる。しかし、彼が討ったのは家康ではなく、信長だった！一体、だれが仲間で、敵なのか？信頼と裏切りがうずまく戦国時代、光秀の真の思いが、側に仕えていた涼音によって今語られる。



## 雨女とホームラン

吉野 万理子／著  
(静山社)

91・ヨ

何かと縁起をかつぐ野球少年・竜広は、となりの席の里桜が占い好きだと知って話をするようになる。ジンクスや占いの話で盛り上がるなか、転校生の由樹が雨女ではないかと言われたことを気にして遠足を休んでしまう。担任の小山先生は、雨女は思い込みや妄想だとみんなを叱った。納得できない竜広だが、先生が厳しい言葉を言ったのは、「信じすぎでしまう」ことがもたらした取り返しのつかない出来事があったからだった。



## 赤毛証明

光丘 真理／著  
(くもん出版)

91・ミ

中学1年生のめぐは、生徒手帳に赤毛証明という大きなハンコを押されてしまう。髪を染めていない証明なのだが、もともとの毛色なのに「ふつうじゃない」ように扱われたことに納得できない。めぐの幼馴染で車いすバスケットの選手の鉱は、道ゆく人に見られても「これが、おれのふつうだから」とさりりと言う。ふつうってなんだろう？と考え始めためぐは、「赤毛証明は必要か？」をテーマにした自由研究を進める中、自分なりの結論にたどり着く。



ぼくらしく、  
おどる

大前 光市／著  
(学研プラス)  
76・オ



バレエのレッスンやアルバイトで友達と遊ぶ時間もない高校時代を過ごし、仲の良かった父親とけんかしてまでも舞台に立つ表現者になるため努力してきた大前光市さん。そんな大前さんが交通事故で片足を失ったのは、あこがれのダンサーが主宰するオーディションの最終審査前日だった。挑戦を繰り返しても以前のように踊ることができず絶望するが、ダンスが好きという気持ちを再確認し、短い足で自分らしく踊ることで再び夢に向き合っていく。

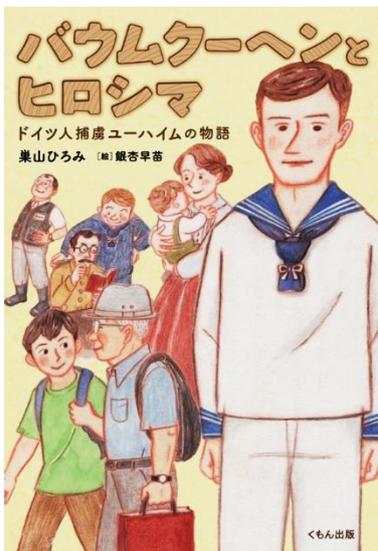


物語部門

## 秘密のノート

ジョー コットリル／作  
杉田 七重／訳  
(小学館)  
93・コ

モノマネが得意で、いつもみんなを笑わせるジェリーはクラスの人気者。太っていることだからかあれても、自虐ネタで返して大爆笑。でも本当は、自分の体型が恥ずかしくて、あざとおどけていた。心の中では深く傷ついていた。ジェリーは家に帰ると、秘密のノートを開き、自分の本当の気持ちを詩にする。ママにも内緒のノートだったが、歌うことで心をさらけ出すレノンと出会い、本当の自分を見せることに…。



物語部門

## バウムクーヘンと ヒロシマ

巢山 ひろみ／著  
银杏 早苗／絵  
(くもん出版)  
91・ス

6年生の颯太<sup>そうた</sup>は、バウムクーヘンが大好きな男の子。広島県似島<sup>にのしま</sup>で行われるキャンプで、バウムクーヘン作り体験があると知り、ワクワクしながら参加する。しかし、職員のブンさんから、初めてバウムクーヘンが日本で売られた時の話を聞き、お菓子の背景にあった歴史を知ることになる。1919年、捕虜<sup>ほりよ</sup>として日本にいたカール・ユーハイムが広島<sup>ひろしま</sup>の物産<sup>ぶつさん</sup>陳列館<sup>ちんれつかん</sup>で売ったこと。2度の大战を経て、その場所は今、原爆ドームと呼ばれていること…。戦争や地震を乗り越え、生涯バウムクーヘンを広め続けた菓子職人の物語。



## サンドイッチクラブ

長江 優子／作  
(岩波書店)  
91・ナ

珠子<sup>たまこ</sup>は、塾で出会ったヒカルにさそわれ、公園で砂像(砂で作る彫刻)の対決を審判することになる。ヒカルが砂山をけずって作ったチーターはりりしい顔つきだったが、ライバルの葉真<sup>ようま</sup>が作ったライオンは堂々として完ぺきだった。なんとなく勉強して受験に向かおうとしていた珠子だったが、ヒカルの言葉に心をゆさぶられ、二人で「サンドイッチクラブ」を結成し、葉真を超える砂像を作ることを決意する。一度きりの勝負、珠子はモヤモヤを吹き飛ばすかのように全力をそそぐ。



## チェンジ!

越智 貴雄／著  
(くもん出版)  
78・オ

小学生の時、目立つことがきらいで、写真に写るのが苦手だった越智さんは、自分から「ぼくがとるよ」と言って撮影する側になればいいことに気づく。写真をとると、みんな喜んでくれて、「撮るの、うまいね」とほめてくれる人もいた。うれしかった経験が、後にカメラマンという道につながっていく。パラリンピックの撮影を依頼された時、越智さんは「障害者にカメラを向けていいのか」と不安になる。でも開会式に行くと、不安は一瞬で解け、「障害者」として見る心の壁が消えた。



## 希望、きこえる？

栄谷 明子／著  
(汐文社)  
69・サ

ルワンダはアフリカの中央にある国。紛争が続いたこの国では、小学校に入る前に、一度もえんぴつや本にさわったことがない子、昔話や子守歌を知らずに大人になった人がたくさんいる。ユニセフ職員としてルワンダにいた栄谷さんは、子ども達に歌やお話を届けるために、子ども向けのラジオ番組を作ろうと試みる。でも新しいことを始めるのは大変！だれが責任をとる？運営のお金をどう集める？内容は？一つ一つ課題をクリアし、2015年ついに放送が始まる。ラジオからは子ども達の声が聞こえてきた。



## スイマー

高田 由紀子／著  
(ポプラ社)  
91・タ

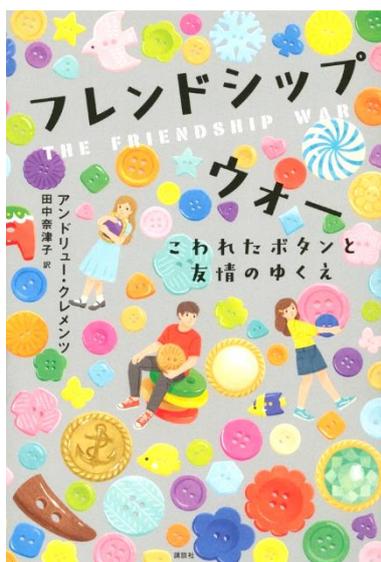
転校そうそう、同級生に水泳に誘われた6年生の航。クロールの航、背泳ぎの海人、バタフライの龍之介、平泳ぎの信司でリレーに出場しようというのだ。廃止の危機にある地元のプールのために、県大会で良い結果を出し、プールの必要性と存続をアピールするのが目的だという。しかし航は、東京の強豪スイミングクラブで挫折を味わい、水泳を避けているのだった。



## あおいの世界

花里 真希／著  
(講談社)  
91・ハ

あおいは、色々なことを空想して楽しんじゃう5年生の女の子。空想すると、ぼーっとしたり、にやにやしたりしてしまうので、クラスで浮いた存在になってしまった。引っ越したカナダでは、なるべく空想せずに、ふつうにしようって決めていたけれど…。外国の学校で新しい友だちや先生と出会い、様々な文化や考え方に触れ、あおいは成長していく。



物語部門

## フレンドシップウォー

アンドリュー クレメンツ／著  
(講談社)  
93・ク

グレースはほしいものがあつたら何でも集めずにはられない女の子。グレースの部屋のベッドの下とクローゼットの中にある27個の段ボール箱には、夏休みに古い工場で集めたボタンがぎっしり詰まっている。ある日、学校にボタンを持っていったことがきっかけで、学校でボタン・フィーバーが巻き起こる。グレースはボタンをめぐって親友のエリーと争うようになり、エリーに避けられるようになる。ボタン・フィーバーを終わらせるため、グレースはとんでもない計画を立てる。



ノン  
フィクション  
部門

## うちにカブトガニが やってきた!?

石井 里津子／文  
(学研プラス)  
485・イ

ハツは家族で参加した絶滅危惧種のカブトガニの幼生観察会で、観察会の原田先生からカブトガニの卵のふ化をすすめられる。家に持ち帰ったカブトガニの卵は50個以上。そのうち49個の卵の透明な膜ごしに小さなカブトガニの赤ちゃんの姿が見えていた。ハツは自由研究用に観察日記をつけはじめる。卵がふ化した後も、ハツの家族は原田先生に飼育のアドバイスをもらいながら、海にかえすまでの1年と2か月の間、カブトガニの観察と研究を続ける。



ガリガリ君が  
できるまで

岩貞るみこ／文  
(講談社)  
58・イ



大好きなガリガリ君を作るため、会社に入ったナナミ。商品開発部に配属され、念願のプロジェクト会議のメンバーに選ばれ、新商品をまかされることに…。張り切るナナミだが、なかなか思った味が出せなくて悪戦苦闘する。



万葉と令和をつなぐ  
アキアカネ

山口 進／写真・文  
(岩崎書店)



昔から日本人に親しまれてきたトンボ。今では数少なくなっている。しかし、絶滅しそうなアキアカネがたくさん羽化してくる田んぼがあると言う。田んぼの持ち主の内山常蔵さんを訪ねると、他の田んぼは乾いているのに、内山さんの田んぼだけ水が入っている。そこから早朝に次々とトンボが飛び立っていた。内山さんは「土の力」と「イネの力」を信じて、農薬にたよらない有機栽培に取り組んでいた。生き物の命は、たしかに私たちの生活とつながっていたのだ。



## 白き花の姫王

みなと 堇／著  
(講談社)

91・ミ

舞台は奈良時代。音琴姫王は、小さい時に父を暗殺されてから話すことができなくなり、天皇の後の世話役についていた。そこで怪しい僧侶が后をそそのかし、次の天皇について指図するのを目撃してしまう。音琴は夫の雄冬王に相談するが、雄冬王はまもなく唐に行くことに。孤立する音琴の前に、インドから来たヴァジュラと羽鳥が現れる。二人はある剣の行方を追っていた。僧侶のたくらみを暴き、剣を手に入れる時、音琴の父の死の謎も解かれていく…時空を超えた冒険物語。



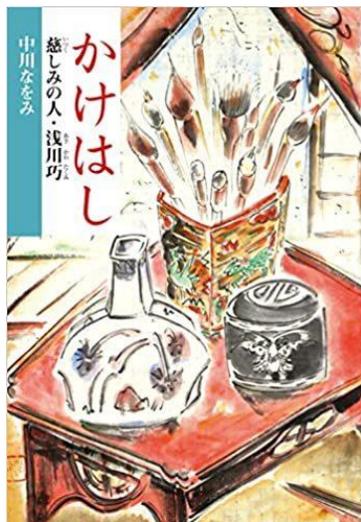
## おじいちゃんとの

## 最後の旅

ウルフ・スタルク／作  
キティ・クローザー／絵  
菱木 晃子／訳  
(徳間書店)

94・ス

ぼくが大好きなおじいちゃんは、心臓が悪いうえに、足を骨折して入院している。がんこで、きたない言葉ばかり使うから、看護師さんもパパもおじいちゃんのことをよく思っていない。でもぼくは、もう一度だけ亡くなったおばあちゃんと住んでいた家に行きたいというおじいちゃんの願いをかなえたかった。二人で計画を立て、パパにもママにも内緒で1泊2日の旅を実行した。おじいちゃんが家に帰って、最後に取り戻したかったものは？



## かけはし

中川 なをみ／作  
(新日本出版社)  
91・ナ

幼少期、祖父伝右衛門と山で過ごした浅川巧は、豊かな自然が人々の暮らしを守るとともに、その美しさが心をうるおしてくれと感じていた。農林学校を卒業後、韓国にあり、荒れた山に緑を取り戻そうとする。巧は、韓国の人々の暮らしを知るにつれ、白磁の茶碗やつぼ、木工品の形が美しく、使いこむほど美しさを増すことに心を動かされる。日本に併合されていた韓国…このままでは朝鮮の文化が失われてしまうと感じた巧は、柳宗悦とともに朝鮮民族美術館を設立しようと決意する。事実に基づく伝記物語。



## 星空をつくる

プラネタリウム・クリエイター

## 大平 貴之

楠 章子／作  
(文研出版)  
440・ク

小学生の時、友達とうまくいかなかったり、忘れ物が多かったりした大平貴之さん。でもそのころから、ものづくりには夢中で、難しい本を読んで本格的な実験をしていた。4年生で、夜光塗料をぬった1000個以上の小さな紙を星座の形にかべにはり、自分の部屋をプラネタリウムにする。友達に見せると、とても喜んでくれた。星空がみんなと自分をつないでくれる！この経験が、プラネタリウム投影機「メガスター」開発の始まりだ。失敗を繰り返しながら作り続け、進化したメガスターは、今、世界中の施設に設置されている。



## フン虫に夢中

いどき えり／著  
(くもん出版)  
486・イ

虫好きならだれにも負けないと思っていた中村圭一さんは、中学校で自分よりすごい昆虫採集をしてきた石田清君に会う。かれが集めてきたのはフン虫！動物のフンを食べる昆虫だが、全然くさくさなく、宝石のように輝くきれいな虫だった。奈良公園のシカのフンの中にいると知った中村さんは、高校生になっても公園に通い続け、フン虫の研究に夢中になる。大人になっても海外に行く機会があれば、めずらしいフン虫を探していた。50歳で、ついに奈良公園の側に「ならまち糞虫館」を作ろうと決意。2年後に開館する。



## ブラックホールの飼い方

ミシェル クエヴァス／作  
杉田 七重／訳  
(小学館)  
93・ク

物語部門

ある日、ステラは、小さな黒い生き物を見つける。その生き物は何でも飲み込んで消し去ってしまうブラックホールのような不思議な生き物だった。ラリーという名前をつけてペットとして飼い始めたステラは、自分のまわりにある嫌なものをラリーに全部飲み込んでもらうようになる。ところが、ママがプレゼントしてくれた子犬までラリーに飲み込まれてしまい、子犬を取り戻そうとブラックホールに入ったステラは、そのまま中に吸い込まれてしまう。



## ライラックのワンピース

小川 雅子／作  
めばち／絵  
(ポプラ社)  
91・オ

物語部門

家族以外には隠しているけれど、智広は裁縫が好き。ある日、同じ6年生のリラちゃんとの出会い、お母さんとの思い出のワンピースのすそ直しを依頼される。大事な洋服のお直しなんて初めての挑戦だったけれど、覚悟を決めて引き受けることにした。一方、智広が幼稚園の頃から続けているサッカーは、大事な試合を控えてチームの練習に熱が入っていた。サッカーと裁縫の両立は思ったよりも大変で、智広は練習を休んでしまう。



## ケンさん、イチゴの虫を こらしめる

「あまおう」栽培農家の挑戦！

谷本 雄治／著  
(フレーベル館)  
62・タ



イチゴ農家のケンさんが栽培するのは、福岡県の新品種「あまおう」。ケンさんが選んだ栽培方法は、立ったままで作業ができる新方式の「高設栽培」で、農薬を使わずにイチゴを育てるといふこれまでとは違う新しいものだった。農薬のかわりに害虫の天敵である生きた虫たちを使う「天敵農法」で、おいしいイチゴ作りに挑戦するケンさんだったが、思うように育てることができず、試行錯誤の日々が続く。



## 消えたレッサーパンダを追え！

警視庁「生きもの係」事件簿

たけたに ちほみ／文  
西脇 せいご／絵  
(学研プラス)  
31・タ



動物園からレッサーパンダが消えた！！ペットショップで珍しいカメが盗まれた！？密輸・密売・密猟の疑いあり！——生き物を専門にした捜査を行う、警視庁「生きもの係」の福原警部は、様々な事件に立ち向かう。大好きな動物たちを救うため、犯罪をなくすため・・・法律を守り、生き物を大切にすることは、生態系と地球環境を守ることにもつながるのだ。



## ジャンプして、 雪をつかめ!

おおぎやなぎ ちか／作  
(新日本出版社)  
91・オ

物語部門

5年生の3学期という中途半端な時期に、離婚したママについて青森へ引っ越してきた唯志は、東京での暮らしとあまりに違う新生活に戸惑う。寒さに凍る水道、雪かき、くみ取りのトイレ。慣れない環境に不安を覚えたり、田舎ならではの人間関係に息苦しさを感じたりしながら違う価値観に触れるうち、自分から行動をおこすことで地域の暮らしに溶け込んでいく。

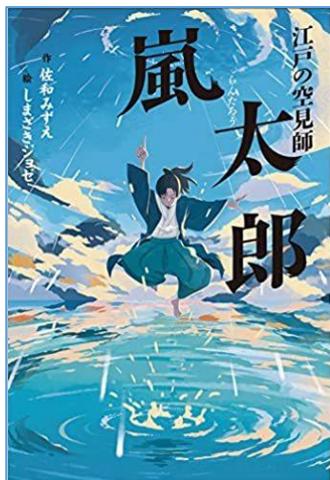


## ぼくと石の兵士

リサ トンプソン／著  
榎田 理絵／訳  
(PHP研究所)  
93・ト

物語部門

オーエンはみんなの前でしゃべるのは大の苦手。ただ、公園にある兵士の石像には学校帰りにいろんな思いを打ち明けることが出来た。「積極的発言」を大事にしているジェニングス先生は、オーエンが発表したがるのを知っているのに、新しい図書館の開館式で来賓の前で詩を読むよう指名する。最初は断るが、兵士の石像が壊される予定だと知り、石像への思いを詩に託そうと決意する。



江戸の空見師 らんたろう 嵐太郎

佐和 みずえ／作  
しまぎき ジョゼ／絵  
(フレール館)  
91・サ



江戸末期、日本に開国を求めやってきたアメリカのペリー提督は「来年の春また来る」と言って去っていた。「ペリー提督を載せた黒船が次に日本に現れる日を、天候をもとに予測してほしい。」空見（天気予報）が得意な貧乏な武士の子・嵐太郎を訪ね長屋にきた侍からの依頼は、国の一大事だった。予測を試みるうち、幕府の体面や権力者に翻弄された祖父や友人の事情を知り傷つくが、自然の法則につつまれていること、人は困難に負けない知恵があると諭され、空見に取り組んでいく。



もしもトイレがなかったら

加藤 篤／著  
(少年写真新聞社)  
51・カ



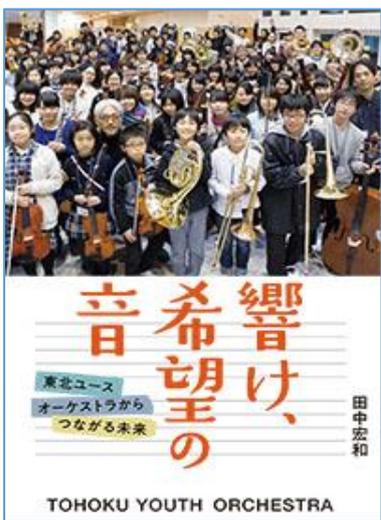
毎日必ず使う場所、トイレ。ゲームのなかではトイレがなくても困らないが、現実の世界では大問題だ。災害時はどうしたらいいのか、山小屋ではどのように処理しているのかといったトイレの工夫や、歴史や各国の事情をふまえたトイレの役割がわかる。感染症予防など、「トイレが命を救う」こともある。普段当たり前のように使っているトイレの大切さをこの本で学んでみよう。



## 渋沢栄一伝

小前 亮／作  
(小峰書店)  
91・コ

江戸末期、渋沢はひとつはしよしのぶ一橋慶喜（のちの徳川 15代将軍）に仕え、兵を増やし、領内の物が高く売れるよう策を打ち出した。幕府の弱さに不安を感じ、もっと民の力を強くすべきと考えていたからだ。パリに行く機会を得た渋沢は、外国で銀行や株式会社の活動を知る。これこそ日本で必要なことだ…。近代日本経済の父と呼ばれ、新札の顔にも選ばれている渋沢栄一の、人を動かす情熱にふれる歴史ストーリー！  
第二部では帰国後に 500 以上の会社を作った功績、第三部では明治時代の実業家を紹介。



## 響け、希望の音

田中 宏和／著  
(フレーベル館)  
76・タ

東日本大震災を経験した子ども達で結成された「東北ユースオーケストラ」。小学4年生から大学生まで、160人以上の応募があった。被災について話すことをがまんしていたミズホ、考え方の違いからぶつかるユウタとユウト…。でも、言葉だけでなく音楽で東北のことを伝えたい思いはみんな同じ。彼らの音色は被災地から全国に広がっていく。2020年はコロナ禍で演奏会中止となったが、人々に希望をもたらした彼らの音楽は未来に続く。



## 山をつくる

菅 聖子／文

(小峰書店)

65・ス

東京の3分の1は森。その手入れしているのが現代のきこり「東京チェーンソーズ」だ。彼らには2つの仕事がある。一つは、植えてから木材になるまで50～60年はかかると言われている「木を育てる仕事」。もう一つは「木を届ける仕事」。人のくらしを見つめ、様々な加工で、まるごと1本の木を捨てることなく使えないか考えている。新しい活用を広げている木の可能性にはワクワクする。山の多い日本に欠かせない林業の大切さを教えてくれる1冊。